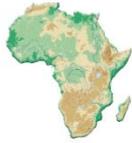


もっとアフリカを知り、経済、技術、文化の交流を促進します



月刊アフリカニュース

2018年 1月 15日 No. 63

目次

巻頭言 [「新たな年を迎えて」](#) 編集委員長 福田 米藏 2
在外公館ニュース

[=今月の読みどころ= \(12/16~1/15 公開月報\)](#)

編集委員長 福田 米藏 3

* 以下各国をクリックしていただくとオリジナルにジャンプします。

[ガボン月報](#) (12月) [コンゴ\(共\)月報](#) (11月) [ザンビア月報](#) (11月)
[ブルンジ月報](#) (10・11月) [ベナン月報](#) (11月) [ボツワナ月報](#) (11月)
[南アフリカ月報](#) (11月) [モーリタニア月報](#) (10~12月) [ルワンダ月報](#) (11月)

特別ニュース

[アフリカ全般](#) [アフリカ西部](#) [アフリカ東部](#) [ウガンダ](#) [エジプト](#) [エチオピア](#)
[ガーナ](#) [ケニア](#) [コンゴ\(民\)](#) [ジンバブエ](#) [チュニジア](#) [南アフリカ](#) [南スーダン](#)

編集委員会 編集委員 9

お役立ち情報

[「アフリカ：消費者市場、工業化政策、アフリカ プロGRESS パネル、各国選挙日程」](#)

顧問 堀内 伸介 18

JOCV 寄稿

[「『空手道』を通してルワンダの子供たちに『目標に向かうきっかけ』を与える」](#)

2015年度3次隊 空手道

ウガンダ空手連盟 由地 一樹 22

インタビュー

[「佐藤 芳之 オーガニック・ソリューションズ代表 に聞く」](#)

[ーアフリカ発のビジネス・ソリューションを世界へー](#)

編集委員 清水 眞理子 26



[アフリカ映画情報](#)

特別研究員 高倍 宣義 32

[アフリカ協会からのご案内 ー協会日誌ー](#)

理事 成島 利晴 33

編集・発行： 一般社団法人 アフリカ協会 月刊アフリカニュース編集委員会
編集委員長 福田 米藏 / 編集委員 エディター 高田 正典

巻頭言

『新たな年を迎えて』

2018年睦月も10日が過ぎました。

今年の寒波は大変厳しく日本海側は大雪に見舞われていますが、首都圏はこのところ穏やかなお正月を迎えています。窓から見える木々は葉を落とすものも多く、残された枝は寒々と風に揺れています。思いっきりその枝先を伸ばし太陽の陽を体全体で浴びようとしています。空気の冷たい冬こそ陽射しの温かさが身に沁みるように思います。日差しの強い夏には耐えられないことですが、この季節こそ陽の当たる場所でじっくりと太陽光を受けて体を温める「日向ぼっこ」が似合います。

ところで年始めには、人々が家族や親戚の下に集まり、「睦み合う」＝「互いに親しみ合う」ことから1月を睦月と呼ぶとの説が有力なようですが、確かに盆と正月には未だに多くの人々が故郷に帰り、互いの健康を確かめ喜び合う伝統は続いていますね。特に新年は、家族そろって神仏に一年の計をお祈りする人々が多く、著名な神社仏閣は大晦日から正月三が日にかけて、大変な人出でごった返しています。

これまでの人生、年越しそばを食べ、夜更かしをして、新年の初日の出を拝む等と言うこととは程遠い生活をしてきた私も、昨年大晦日は、年越し蕎麦を食べた足で神田明神へ初詣、そして横浜港へ足を延ばして初日を拝んできました。

寒さの中、大変な人ごみの中、整然と列をなし順番を待つ人々を眺め、なにやらほっとする一日でした。

今年も、自然界でも人間界でも、様々なことが起きるでしょうが、人々が力を合わせて何事も乗り越えて行ける年であることを祈りたいと思います。

編集委員長 福田 米藏

ガボン共和国月報 (12月)

1. 2018年政府予算の承認

11月29日、2018年政府予算案は前年予算に比べ1,712億CFAフラン減額の2兆6,888億CFAで、国民議会において全会一致で採択された。同日、9月から開催されていた上下両院の第二会期が閉会した。

2. One Planet Summit

12日、パリにて開催された気候変動サミット (One Planet Summit)に、気候変動に関するアフリカ首脳委員会 (CAHOSCC)議長としてボンゴ大統領が出席し、アフリカ・イニシアティブに対する50万ドルの支援を表明した。

3. Sinopec社のガボン撤退

中国石油化工集团公司 Sinopec社は、カメルーンでの事業集中に向け、ガボン、ナイジェリアから撤退する意向を表明し、BNP Paribasを通じて両国の鉱区売却に向けた手続きを開始した。

http://www.ga.emb-japan.go.jp/pdf/gabon_geppo/gabon_geppo_12_2017.pdf

コンゴ (共) 月例報告 (11月)

1. 5か年行動計画

16日、ムワンバ首相は、経済危機から脱出するための5か年行動計画 (2018年ー2022年)を国民議会へ提出した。同計画の内容は、人材育成分野、経済多様化、社会的所得移転、学校給食の促進、行政運用資金削減等である。

2. プール県情勢

コンゴ (共) 政府は7日、プール県及びブエンザ県内に設置された国軍による通行止めを解除し、17日、これまで拘束していたフレデリック・ビンサム (民兵ニンジャの指導者とされる) の側近約15名を釈放した。

EU、中国等がプール県への緊急人道支援を表明した。

3. 2018年版 Doing Business

10月31日、世銀グループ国際金融公社 (IFC)は2018年版「ビジネス環境の現状報告書 (Doing Business)」を発表、コンゴ (共) は190カ国中179位で、前回の177位から順位を二つ下げた。

4. ナイジェリア企業によるセメント工場操業開始

23日、サス・ンゲソ大統領は、ブエンザ県内のナイジェリア系セメント製造企業ダンゴテ社の工場を視察し、操業開始式典に参加した。同工場への投資額は3億米ドルで、年間製造量は150万トンの予定である。

<http://www.rdc.emb-japan.go.jp/files/000317801.pdf>

ザンビア経済概況・月報（11月）

1. 世界銀行の評価

10月31日に世銀グループにより発表された「ビジネス環境の現状報告書」によると、ザンビアは190カ国中85位であるが、前年比3.92ポイント増との調査指標に示されるように、2018年のビジネス環境において著しく改善を見せている経済のトップ10の一つである。

2. 一般企業への融資

ムタティ財務大臣によると、一般企業への融資の拡大は停滞しており、成長を妨げる原因となっている。同大臣は、一般企業への融資は平均して年260億クワチャであると述べた。

3. 借入の制限

内閣は、外部からの経済ショックを最小限に止めるため、商業借入れを制限し、譲与的借入れに集中することを議決した。さらに政府は、世銀グループと協力し、強靱な財政セクターの開発のために、国家財政セクター開発政策、及び国家金融包摂戦略を発表した。

4. コーポレーティング・パートナーを歓迎

ザンビア国税庁は、コーポレーティング・パートナーからの約810万米ドルのプロジェクト支援有価証券が、国内のコンプライアンス強化のための近代化改革の発展と実施を助長したと発表。

<http://www.zm.emb-japan.go.jp/files/000320279.pdf>

ブルンジ月報（10月）

1. 憲法改正案

ブルンジ政府報道官によると、24日、憲法改正案策定委員会の提出した憲法改正案が閣議に於いて協議され、改正に向けた次の段階に進むことが許可された由。改正案の要点の一つは、首相職の設置である。

2. 国際刑事裁判所

ブルンジは国際刑事裁判所（ICC）から脱退した最初の加盟国となった。ブルンジがICCから脱退する意思を国連事務総長に通告してから1年後の10月27日、ICC報道官は、ブルンジの脱退が効力を生じたことを確認した。

3. EUによる制裁

EUは、ブルンジ政府上層部4人に対する渡航禁止及び資産凍結をさらに一年間延長して実施する旨発表した。

ブルンジ月報（11月）

1. 国際刑事裁判所

10月25日、ICC判事がブルンジに対する捜査開始を許可した。ICC広報官によると、国際刑事裁判所に関するローマ規程127条に従い、ブルンジ政府はICCを脱退した2017年10月27日以前に捜査が決まった事例について、ICCに対する協力義務があり、捜査に必要な期間にわたってその協力義務がかかっているとされる。

カニャナ法務大臣は、ブルンジにおける戦争犯罪に関する捜査の実行に関して、ブルンジが ICC に協力することは断じてないと述べた。

2. ウガンダ、タンザニアの批判

ウガンダのムセベニ大統領及びタンザニアのマグフリ大統領は、ICC によるブルンジに対する戦争犯罪捜査の決定に関し、ムカパ元タンザニア大統領を長とするブルンジ和平プロセス調停委員会の活動を含む東アフリカ共同体自身の努力に反するものだと批判した。

3. 国外野党プラットフォーム (CNARED) の反応

ンディティジェ CNARED 代表は、ウガンダとタンザニア首脳がブルンジに対する十分な働き掛けや説得を行っていないとして落胆を示し、「国民対話は EAC の介入が欠如していることにより、機能不全に陥っている」と述べた。

4. 国外ルート

2015 年のブルンジ危機以来、ブジュンブラからウガンダのカンパラへは、タンザニアを経由する必要があったが、最近になりキガリを経由するルートが再開された。これにより所要時間が 4 時間短縮されるとともに、道中の治安も確保されやすくなる。

<http://www.rw.emb-japan.go.jp/files/000321882.pdf>

ベナン月報 (11 月)

1. 2018 年国家予算

10 月 31 日、国民議会で 2018 年国家予算が 1.86 兆 FCFA で採択された。2017 年比約 1,470 億 FCFA 減 (-7.3%) であるものの、減額分については、官民連携パートナーシップで補われる。

2. ビニール袋の禁止

3 日、国民議会において、生物分解性でないビニール袋の生産・輸出入・販売・所有・配布・使用を禁止する法案が成立した。保健・医療・軍事・研究等での使用は例外的に認められる。

3. アフリカガバナンスのイブラヒム指数

20 日、Mo Ibrahim 財団は、2017 年版「アフリカガバナンスのイブラヒム指数 (IIAG)」を発表した。国より提供された保健、教育及び社会的援助等から算出されるもので、ベナンは 54 カ国中 14 番目で昨年から 1 つ順位を上げた。

4. ベナンタクシー計画

2 日、ビオ・チャネ計画・開発大臣は、Benin Taxi 計画の第 2 フェーズで新たに 203 台の車両の導入を発表した。7 月 3 日に第 1 フェーズが開始され約 50 台がコトヌで展開している。

http://www.bj.emb-japan.go.jp/j/pdf/geppo_201711.pdf

ボツワナ共和国月報 (11 月)

1. 大統領退任式

カーマ大統領の退任式が 2018 年 3 月 16, 17 日に実施される予定であることが明らかになった。

2. ミャンマーを非難

ボツワナ政府は、ミャンマーにおけるロヒンギャ族に対する人道危機に対して懸念を表明した。ボツワナ政府は、ミャンマー政府に対し、現在ロヒンギャ族に対して行われる暴力の早期中止、人権と法の支配の徹底及び難民の帰還を求めた。

3. ボツワナ電力公社

ボツワナ電力公社 (BPC)は、送電網を北西地区、チョベ地区及びハンツィ地区に拡張する 46 億プラ規模の北西送電網整備プロジェクトを開始する。同プロジェクトの建設期間に 2000 人以上の雇用を生み出し、送電網の整備が完了すれば、様々な分野で約 8000 人の雇用を創出する見込み。

4. Doing Business ランキング

1 日、世界グループが発行する国内の事業環境や生産性による経済競争力を示す「Doing Business2018 報告書」が公表され、ボツワナは順位付けの元となるポイントが昨年よりわずかに上昇したものの、順位は今年の 71 位から 81 位に低下した。

<http://www.botswana.emb-japan.go.jp/files/000319044.pdf>

南アフリカ月報 (11 月)

1. ANC 総裁選挙

12 月に開催される ANC 総裁選挙に向けた各支部によるノミネーションが終了。

「ラマポーザが 9 州のうち 6 州で優勢」等の報道もみられるが、全国大会に出席する ANC 代議員の数は州によって異なり、支持獲得州の数だけをもってラマポーザ優勢とは言えない状況。

2. インフレ率

南ア統計局によると、10 月の消費者物価指数 (CPI)は、4.8%、前月比 0.3%減。食料とエネルギー価格を除いた物価上昇率では、前年同月比 4.5%減、これは 2012 年 7 月以来の低下。

3. 政策金利の据え置き

23 日、準備銀行は、前回 9 月の金融政策委員会から引き続いて政策金利を 6.75%で据え置くことを発表。カニャーゴ総裁は、この決定の主な背景に南アのインフレリスクが高まっていること等を挙げた。エコノミストの中には、今回中銀が本年 6 月に続く利下げにより景気刺激を行う貴重な機会を失ったと批判する向きもあり、カニャーゴ総裁は、インフレ回避のため 2019 年末までに段階的に 0.75 ポイント政策金利を引き下げる可能性に言及した。

4. 信用格付け

23 日に Fitch 社、24 日に S&P 社及び Moody's 社が南アの国債信用格付けの見直しを行った。

5. 景況感

Absa Bank が発表した 11 月の購買担当者指数 (PMI)は、48.6 ポイント (前月比 0.8 ポイント増)を記録。先月に続き上昇し、4 か月連続上昇となり、2017 年 5 月以来最も高い数値となった。

<http://www.za.emb-japan.go.jp/files/000315915.pdf>

モーリタニア月例報告（10～12月）

1. 安保理サヘル訪問ミッション

10月20日、アブデル・アジズ大統領は、大統領府において、G5サヘル諸国及び安保理理事国15か国の国連代表部大使を含む安保理サヘル訪問ミッションと会談を行った。同会談終了後現在安保理議長国を努める仏国連政府代表部大使他は、アブデル・アジズ大統領が地域全体の治安回復のために果たしている役割を評価した由。

2. 米国非難声明

12月7日、外務・協力省は、米国によるエルサレムの首都承認及び米国大使館のエルサレムへの移転を非難する声明を発表。

3. G5サヘル3周年記念式典

12月19日、国民議会場にて、アイダ経済・財務省次官主催のG5サヘル3周年記念式典が開催された。

4. デノミネーション

11月28日、独立記念式典において、アブデル・アジズ大統領は、2018年1月1日から、中央銀行がデノミネーションに伴う新通貨（不正により強く、通貨単位を10分の1とすることにより、より強靱となる新紙幣及び新硬貨）の流通を開始する旨発表した。ダヒ・中銀総裁は、大統領の発表を受け、「ウギア」のデノミを含む通貨改革実施を発表、今回の変更点は、貨幣の単位を1桁切り下げる点と、紙幣の材質変更の2点である。

<http://www.mr.emb-japan.go.jp/files/000322175.pdf>

ルワンダ国月報（11月）

1. ビザ政策

ルワンダ政府は、2018年1月1日から、全ての国からの旅客に対し、到着時のビザの発給を認めることを閣議決定した。到着時のビザ発給は、これまでアフリカ各国の旅券所持者にのみ認められていたが、今回の改正でアフリカ以外の国の旅客に対しても、事前のオンライン申請なしで30日間のビザが発給されることになった。

2. Global Business Forum on Africa

1日、カガメ大統領は、ドバイで開催されたアフリカ投資を促進するための会議「Global Business Forum on Africa」に出席し、地域統合こそが繁栄を促進するための鍵となる旨述べた。

3. World Travel Market

6日、カガメ大統領は、ロンドンで開催された貿易及び観光をテーマにしたイベント「World Travel Market」に出席し、持続可能な観光を促進する取り組みを称えられ、表彰を受けた。

4. Doing Business 2018

ルワンダは、5つの改革を実行したことにより、2018年世銀グループのDoing Business報告書での評価を前回の56位から15引き上げ、世界で第41位となり、引き続きモーリシャスに次いでアフリカ第2位の評価となった。また、今回の調査では、不動産登録の項目にてニュージーランドに次いで世界第2位の評価となった。

5. キャッシュレス経済

16日、ルワンゴムブワ・ルワンダ中央銀行総裁は、ルワンダ民間企業連盟（PSF）のワークショップに参加し、企業関係者に対し、電子支払いシステムを取り入れるなどし、キャッシュレス経済を促進するよう求めた。ルワンダ政府は、2020年までにキャッシュレス経済を実現することを目標にしている。

<http://www.rw.emb-japan.go.jp/files/000321877.pdf>

*通貨換算 URL : <http://www.xe.com/ja/currencyconverter/>

*記載した情報は、在アフリカ諸国日本大使館 HP と AB-NET から収集したものです。

1. 「アフリカ：インフォーマル部門に隠されている成長の可能性」

“Hidden figures: tapping into the informal economy”

Rosalind Kainyah、This is Africa、12月1日

<https://www.thisisafricaonline.com/News/Hidden-figures-tapping-into-the-informal-economy>

太陽光パネルで電池に充電することがガーナの田舎に普及するずっと以前に田舎では自動車の電池を利用して、TVを見ていたし、携帯を充電していた。田舎の電気屋が、機材を分解したり、部品を集めて工夫して、TVを見たり、自動車まで作っていた。

スマートフォンを中古部品から作るなどこの西アフリカの市場の片隅でもおこなわれていることである。しかし、GDPに計上されることはないインフォーマルな生産である。IMFはインフォーマル部門の経済への貢献はGDPの38%と推定している。

モーリシャス、南アではGDP20%くらい、タンザニア、ニジェールでは65%くらいと推定している。才能と成長の機会が無駄になっているといえる。フォーマルな大企業が、インフォーマルな部門に投資し、フォーマル部門に引き上げる努力が望まれる。

2. 「アフリカ：AUはEUと対等なパートナーとなれるか」

“The EU-Africa summit is now the AU-EU summit. Why the upgrade matters ”

Frank Mattheis、John Kotsopoulos、The Conversation、12月4日

<https://theconversation.com/the-eu-africa-summit-is-now-the-au-eu-summit-why-the-upgrade-matters-88185>

アフリカと欧州諸国の首脳は先週アビジャンで第5回目の会合を持った。AUがEUのパートナーとして初めて参加した。若者、移住、安全保障、ガバナンス等が議論されたが、重要な変化はAUがアフリカ諸国を代表し、今後会議はAU-EU会議となることである。しかし、この会議がAU-EUの実質的に対話の場となるか、形式的な会議になるかは、1) AUが財政的に援助に依存しなくなること。2) アフリカ諸国がAUに国際交渉の権限を与えるか否か。3) AUはEUの他のアフリカの組織とのパートナーシップを超える事が出来るか。4) 中国など他のパートナーがAUとの会談を最重要視するか、にかかっている。

3. 「アフリカ：2017年民主主義について学んだ5項目」

“A year of illusions: five things we learnt about democracy in Africa in 2017 ”

Nic Cheeseman、The Conversation、12月11日

<https://theconversation.com/a-year-of-illusions-five-things-we-learnt-about-democracy-in-africa-in-2017-88904>

アフリカの民主主義にとって判断に苦しむ過去12ヶ月であった。クーデターに見えないクーデター、選挙には見えない選挙を経験した。幻覚の年と言える。民主主義の

後退を見たが、同時に幾つかの国で強力な大統領が倒されるのもみた。今年の教訓は？

1) 軍と対立するな。ジンバブエでは軍が自己の政治的経済的な利益を守るために動いた。2) 礼儀正しく振る舞えば、罪に問われない。ジンバブエで大統領を追い出した者達は、大統領に表面上礼儀正しく対応し、国民の支持を得た。3) 司法は民主主義を守れない。ケニアの大統領選では、司法は例のない判例を残したが、司法が民主主義を守る力も法も持たないことが明らかであった。4) 政治的な差別は分離主義と分離運動の原因となる。カメルーン、ケニア、ナイジェリアなどの分離独立運動は、将来の政治的混乱を招く。5) 西欧の企業も問題の一部となる。良い例が、南アにおける Bell Pottinger 社であり、南アにおける民族対立をあまり、ANC の問題から注意をそらすデザインを作成した。

4. 「アフリカ：マラリアの増加傾向」

**“Africa: 80% Rise in Malaria Cases in 15 Countries”、
Christabel Ligami, The East African, 12月13日**

<http://allafrica.com/stories/201712130451.html>

世界マラリア報告書 2017によると、2016年の世界のマラリアによる死亡の80%を占める15ヶ国にルワンダ、ケニア、ウガンダ、タンザニアが入っている。アフリカでマラリアの患者と死亡の高い国は、エチオピア、マダガスカル、ジンバブエ、マラウイ、南スーダン、ザンビアである。これらの国においてマラリア発症は2010年の1350万ケースから2016年には4150万ケースに増加している。しかし、同期間における死亡数は70,700から20,800、71%の減少である。WHOによれば、一時減少したマラリア発症数と死亡数が過去3年間に増加している地域もある。

5. 「アフリカ：国家間と国内における不平等の存在」

“Africa: Closing Africa's Wealth Gap”

Kingsley Ighobor, Africa Renewal (UN publication), 12月19日

<http://allafrica.com/stories/201712230003.html>

マッケンゼー社は2020年のアフリカ諸国のGDPは2.6兆ドル、アフリカの消費者支出1.4兆ドル、と予測している。投資家を引きつけている国は、コートジボアール、ベニン、モロッコ、ルワンダ、セネガル、トーゴである。国連開発計画によれば、アフリカの新しい富は少数の国に集中し、世界で最も不平等な19ヶ国の内10ヶ国はサブサハラ・アフリカにある。南アフリカ、ボツワナ、ナミビア、ザンビア、エチオピア、ナイジェリアが指摘されている。不平等の原因として、1) 未熟練労働者の吸収をしない部門が成長している。2) インフラ、技術者、土地が東アフリカと南部アフリカに集中している。3) “自然資源の呪い”、政策の都市偏重、民族と性別差別の存在が挙げられている。解決策は各国の実情に合わせて作成されなければならない。万能薬はない。

6. 「アフリカ：『エレサレム』決議案への賛否」

“Africa: UN Resolution Rejects U.S. Decision to Declare Jerusalem Israel's Capital “
Nduta Waweru、This is Africa、12月22日

<http://allafrica.com/stories/201712220766.html>

アフリカ諸国の多くは米国のエレサレム首都承認に反対す決議案に賛成した。

トーゴが唯一反対した。ボツワナは決議案に含まれている脅しを厳しく非難した。

カメルーン、赤道ギニア、ベニン、レソト、南スーダン、ウガンダは棄権し、ケニア、ザンビア、RDC、中央アフリカ、サオトメ・プリンシペ、シエラレオネは欠席。

7. 「アフリカ（難民問題）：フランスで2017年難民などの保護申請が10万件を超える」

“Le cap des 100 000 demandes d’ asile franchi en France en 2017”

Le Monde 01月08日 By Maryline Baumard

http://www.lemonde.fr/societe/article/2018/01/08/le-cap-des-100-000-demandes-d-asile-franchi-en-france-en-2017_5238644_3224.html

フランス難民・無国籍者保護局 Ofpra の発表によれば、2017年の外国人の保護申請は前年比17%増で初めて10万件を超え、100412人となった。上位順はアルバニア、アフガニスタン、ハイチ、スーダン、ギニア、シリア、コートジボワール、コンゴ民、アルジェリア、バングラデシュだが、アフリカからが半分を占める。

8. 「アフリカ西部：地域統合は王国時代、植民地時代に機能していた制度の検討から」

“West Africa: empirehood and colonialism offer lessons in integration”、

Karen Jackson、The Conversation、12月13日

<https://theconversation.com/west-africa-empirehood-and-colonialism-offer-lessons-in-integration-87470>

西アフリカ経済共同体「ECOWAS」の創始者達は、この地域の開発と自由貿易の発展を切望していたが、未だ西アフリカの統合は成立していない。貿易の制度的障害が存在する。790年~1650年間にガーナ、マリ、ソンガイ王国が現在の西アフリカ地域を支配し、地域貿易の基礎が出来ており、交易は盛んであった。16世紀からの奴隷貿易、19世紀の植民地行政は地域の共通制度の発展を阻害したが、共通貨幣、教育制度、チーフによる契約の履行などは継続していた。植民地制度の最大の欠陥は、生産構造が宗主国と植民地の交易を中心としたものに移行したことである。ECOWASは契約の履行、汚職の取り締まりなどを強化し、王国時代、植民地時代に機能していた制度を再確認することが必要ではないか。

9. 「アフリカ東部： 民主的な勢力が成長しているのに独裁的な政権が強化されている。」

“East Africa sliding back to strongman rule despite major democratic gains”

Fred Oluoch、The East African、12月16日

<http://www.theeastafrican.co.ke/news/EA-sliding-back-to-strongman-rule-despite-democratic-gains/2558-4230830-7ihs5cz/index.html>

エリトリア、エチオピア、スーダン、南スーダンでは独裁的な指導者が君臨し、ウガンダ、ブルンジ、ケニア、タンザニア、ルワンダでも憲法改正を行い、大統領の任期の延長を計っている。かつては世銀やIMFが融資の減額等で、独裁的な政権に影響を与えてきたが、現在は中国の低金利融資によって、かつての影響力は失われてしまった。皮肉なのは、これらの国では民主的な反政府政党が伸びてきていることである。政権党は伸びつつある反政府運動に対抗するためにメディア、労働組合、市民団体への圧力を強めていることである。

10. 「ウガンダ：生涯大統領への道が開かれた」

“Uganda Lifts an Age Limit, Paving the Way for a President for Life”、

Jina Moore、NYT、12月20日

<https://www.nytimes.com/2017/12/20/world/africa/uganda-president-museveni-age-limit.html>

数ヶ月間にわたる激し議論、時には暴力もあった国会で大統領の年齢制限をなくす法案が315対62で可決された。これによってムセベニ大統領に生涯国を支配する道が開けた。しかし、国民の大多数は反対であった。Afrobarometerの調査では75%の回答者が反対であった。国の人口の70%は25歳以下であり、そのほとんどが雇用されていない。ムセベニは1986年に反乱軍を率いて、勝利を得て、大統領に就任したので、若者達は一人の大統領しか知らない。

11. 「エジプト：治安部隊襲撃で15人に絞首刑執行、数年ぶりの大量処刑」

“Egypt hangs 15 over attacks on security forces: officials”

AFP、12月26日

<https://www.news24.com/Africa/News/egypt-hangs-15-over-attacks-on-security-forces-officials-20171226-2>

情勢不安定なシナイ半島で、治安部隊を襲撃し死刑判決を受けていた15人に対し絞首刑が執行された旨、警察当局が明らかにした。刑は軍事法廷で死刑が言い渡された後に15人が収監されていた刑務所2か所で執行され、2015年に過激派6人に対して絞首刑が処されて以来の大量処刑となった。シナイ半島ではイスラム過激派組織「イスラム国」傘下の武装勢力がたびたび警察官や兵士らを襲撃し、これまでに数百人を殺害しており、シナイ半島以外でも一般市民を狙った攻撃を仕掛けている。

12. 「エジプト：大統領選第1回投票は3月末」

“Le premier tour de l’ élection présidentielle égyptienne aura lieu fin mars”

Le Monde 01月09日

http://www.lemonde.fr/afrique/article/2018/01/09/egypte-le-premier-tour-de-l-election-presidentielle-aura-lieu-fin-mars_5239187_3212.html

大統領選の第1回投票は3月26-28日、第2回目は4月24-26と発表されたが、エルシーシ大統領の2期目への立候補が確実視される中、競争相手の不在が危惧されている。11月に立候補の意図表明をした3人の内、Ahmed Chafiq 元首相は取り下げ、

Khaled Ali 人権弁護士は公共の秩序を乱した廉で3カ月の判決を受け、3人目の Ahmed Consowa 大佐は12月に軍体制の規律違反で6年の判決を受けている。最大野党のムスリム同胞団は Mohamed Morsi が軍に解任されて以降、刑務所か亡命中である。2014年は実質的な競争候補なくエルシーシが96.9%の得票で大統領選任されている。

13. 「エチオピア：日本企業がアフリカで最初の工場を新設した」

“Ethiopia: Japanese Firm Opens First Plant for Ethiopia, Africa”

All Africa, 12月30日

<http://allafrica.com/stories/201801020220.html>

日本のカジュアル・ウェア製造企業である「ユニクロ」社が、このほど第一号となる工場をエチオピアに開設した。これはヨーロッパと北米で既に実績を有する同社がアフリカに開いた第一号の工場でもある。実際の稼働は来年（2018）であり、当初は男女の上衣を生産予定であるが、その後拡張を予定している。ユニクロの工場新設は、昨年（2016年）は33億USドルに達した、エチオピアへのFDIの一つとなる。

14. 「ガーナ：西欧諸国への依存は真の独立を妨げる」

“Ghana : Beggar continent no more!”

Alemayehu G. Mariam, Pambazuka, 12月15日

<https://www.pambazuka.org/economics/beggar-continent-no-more>

ガーナのアクホアド大統領はマクロン仏大統領の来訪の際に次のような演説をした。西側諸国の援助を当てにしてアフリカ大陸、地域諸国は、国の政策を建てる事を続けるわけにはゆかない。それは役に立たないであろうし、役に立たなかった。自国の発展は自国の責任である。ガーナは独立以来60年を経ても保健医療と教育予算は欧州諸国の納税者に依存している。自国の基礎的なニーズは自国で賄わなければならない。依存のマインドセットを変えなければならない。独立時に夢見た繁栄を自分たちの手で実現しなければならない。（長い記事ですが、一読をお勧めします。）

15. 「ケニア：米国外交官がトランプの政策に抗議して辞職」

“Kenya: U.S. Diplomat in Nairobi Quits Over Trump Tactics”

Kevin J Kelley, Nairobi News, 12月11日

<http://allafrica.com/stories/201712110472.html>

ナイロビに駐在していた米国の有望な外交官が、トランプ政権の軍事重視、特にソマリアについて外交政策に抗議して職を辞した。米国政府は人権と民主主義を推進する公約を実施していない、と国務長官に告げた。外交より軍事への政策のシフトは、アフリカにおいて一番顕著である。外交官はソマリアの指導者と直接会う許可をワシントンに申請しているが、許可されない。しかし、米軍の将校は自由に大統領官邸でソマリア指導者に会う事が出来る。

16. 「ケニア：最高裁判所は大統領再選挙の結果を支持する理由を示した」

”Supreme Court gives reasons for upholding Uhuru Kenyatta's win”

Sam Kiplagat、Daily Nation、12月11日

<http://www.nation.co.ke/news/politics/Supreme-Court-judgment-upholding-Uhuru-Kenyatta-October-26-win/1064-4223568-mfadqe/index.html>

最高裁判所は10月26日の大統領再選挙におけるケニアツタ候補の勝利を宣言した。6人の判事によれば、選挙管理委員会は最高裁の指示通り選挙を行い、8月8日の選挙の候補者は全員投票用紙に記入されていた。オディンガ候補の9月10日の選挙から離脱するとの決定は、法的に正しいが、投票用紙から名前を消すことは、憲法にも選挙法規定がなかった。不正行為による選挙の無効の上告は、それを正当化する証拠が提出されず、却下された。

17. 「コンゴ（民）：2017年は災難続き年」

“2017: the year the Democratic Republic of Congo would like to forget”

Reuben Loffman、The Conversation、12月3日

https://theconversation.com/2017-the-year-the-democratic-republic-of-congo-would-like-to-forget-88170?utm_medium=email&utm_campaign

2017年はコンゴ（民）にとって混乱の年であった。大統領と議会選挙は延期され、カサイにおける騒乱は悪化し、東部における騒乱も続いている。2016年末に退任しているべきカビラ大統領は居直っている。長年反政府運動を率いてきたTshisekediの死亡は、カビラと反政府グループとの対話の仲人を失い、大衆を動員することも出来なくなった。11月5日に政府は大統領と議会の選挙を2018年末に行う事を発表した。

18. 「コンゴ（民）：首都キンシャサで土砂崩れ、44人死亡」

“DR Congo flood tragedy highlights perils of urban slums”

AFP、1月6日

www.nation.co.ke/news/africa/Landslides-sweep-homes-slums-DR-Congo/1066-4252750-j5eqhx/index.html

首都キンシャサの貧民街で3日から4日朝の豪雨により洪水と土砂崩れが発生し、44人が死亡し、当局者が5日明らかにした。人口約1000万人のキンシャサはカイロ及びラゴスに続くアフリカ第3の大都市だが、インフラが未整備で人口急増により多くの住民は壊れやすい家に住んでいる。

19. 「ジンバブエ：政治における根深い女性蔑視」

“Graceless: Women warned off politics in Zimbabwe”

Ryan Lenora Brown、Wendy Muperi、CSM、12月13日

<https://www.csmonitor.com/World/Africa/2017/1213/Graceless-Women-warned-off-politics-in-Zimbabwe>

ムガベ大統領の失墜の大きな原因のひとつがグレース夫人であった。マスメディアや民衆が政治における根深い女性差別をあらわにした。37年間の政治においてムガベ

の横暴、殺人等々が指摘されているが、ムガベを政権から引きずりおろしたのは、夫人である。女性議員は国会の3分の1を占めるが、女性議員はお飾りに過ぎず、男性を立てる暗黙のルールが支配している。グレース夫人はこのルールをすべて無視した。新大統領の就任式で僧正が、新大統領夫人が議員でもあるのかかわらず、夫人は良き母親としての役割を担うと祈ったことから女性への偏見が明らかである。

20. 「ジンバブエ：政変主導の前軍司令官、副大統領に就任」

“FORMER ZIMBABWE ARMY CHIEF CHIWENGA SWORN IN AS VICE PRESIDENT”

Reuters、12月29日

<http://ewn.co.za/2017/12/28/former-zimbabwe-army-chief-chiwenga-sworn-in-as-vice-president>

11月に37年間に及ぶロバート・ムガベ前大統領長期独裁政権に終止符が打たれたが、その政変を率いたコンスタンチノ・チウエンガ前国軍司令官（61歳）が副大統領に就任した。首都ハラレで就任を宣誓した黒いスーツ姿のチウエンガ氏は、国家への「忠誠」と憲法の「順守」・支持・保護を約束した。ジンバブエの副大統領は2人で、チウエンガ氏の副大統領就任により、軍の政治への影響力が強まるとみられる。

同国ではこのほかにも複数の軍高官が政府や与党の重要ポストに任命されている。

21. 「チュニジア：経済の再建は遅々として進まず、民主的改革も頓挫」

“Tunisia: Seven Years After Arab Spring, Tunisia's Future Uncertain”

Sarah Mersch、Deutsche Welle、12月18日

<http://allafrica.com/stories/201712180073.html>

アラブの春から7年経ったが、チュニジアは民主的な改革と経済成長を軌道に乗せられないでいる。ドイツはチュニスに「移住アドバイスセンター」を開設し、ドイツへ旅行する人、ドイツから帰国、送還された人達にチュニジアにて生活基盤を築くための支援をしている。失業率は高く、貨幣価値も激減し、経済状況は悪化している。欧州への移住願望は、チュニジアでは希望が持てないからである。政府は安全保障の強化に懸命であり、民主的な改革は殆ど進んでいない。

22. 「チュニジア：物価値上げ抗議集会で死者1人」

“En Tunisie, un mort lors d’ un rassemblement contre la hausse des prix”

Le Monde 01月09日 Reuters

http://www.lemonde.fr/afrique/article/2018/01/09/en-tunisie-un-mort-lors-d-un-rassemblement-contre-la-hausse-des-prix_5239175_3212.html

1月8日、チュニジア10都市で失業インフレ、新税導入（軽油、車両、電話・インターネット料金の値上げ）に不満を唱える抗議集会と警察の衝突で1人が死亡した。死者が出たのはTebourbeで、Thalaでは警察が催涙弾を使い、Kasserineで衝突、アラブの春の発生地Sidi Bouzidでは集会が持たれた。9日、野党連合の人民戦線は抗議継続を宣言した。

23. 「南アフリカ：新 ANC の総裁と大統領の 2 頭立ては政治的な混乱を招く」

“The ANC has a new leader: but South Africa remains on a political precipice ”

Roger Southall 、 The Conversation、12 月 19 日

<https://theconversation.com/the-anc-has-a-new-leader-but-south-africa-remains-on-a-political-precipice-89248>

ラマホーサが ANC の総裁に選ばれたが、南アフリカが安定するとは言えない。ドラマは始まったばかりである。ズマが大統領に選ばれた時、ANC の NEC(全国執行委員会)は、ムベキに大統領職を辞職することを求め、辞職した。ズマの場合は簡単には辞職できない。汚職等 783 件の告訴が待ち構えている。辞職がなければ、南アフリカは 18 ヶ月間二つの権力が並立することになる。国は荒海に乗り出すことになる。

24. 「南アフリカ：新 ANC 総裁は 3 課題に緊急に対応できるか」

“Why Ramaphosa won't be able to deliver the three urgent fixes South Africa needs”

Keith Gottschalk、The Conversation、12 月 20 日

<https://theconversation.com/why-ramaphosa-wont-be-able-to-deliver-the-three-urgent-fixes-south-africa-needs-89402>

ラマホーサはビジネス、労働組合、南ア共産党の同盟によって激戦を征した。選挙前から、彼が選ばればズマ大統領を退任に追い込み、汚職をなくし、国営企業を立て直すことが期待されている。しかし期待に応えることが出来るであろうか。

新たに選ばれた NEC 幹部 6 名は、ラマホーサ派と対立派が半々である。1) ズマの早期の辞職に多数が賛成しない可能性が高い。2) ズマを支持したグプタ財閥やパトロネジで利益を得ていたビジネスを排除することは難しい。3) 南ア航空やエスコム等巨大な国営企業に対して断固とした処置を取れるであろうか

25. 「南アフリカ：ズマ大統領の早期退任を求める秘密交渉が始まっている」

“ANC in secret talks on early Jacob Zuma exit ”

Ranjeni Munusamy&others、Sunday Times、12 月 23 日

<https://www.timeslive.co.za/sunday-times/news/2017-12-22-anc-in-secret-talks-on-early-jacob-zuma-exit/>

ANC の古参指導者達はズマ大統領の早期（可能ならば来月）の退任について緊急かつ秘密の交渉をはじめている。驚くことであるが、この交渉はズマの側近によって、ズマが辱めを受けないような退任を求めて始められた。新総裁支持者は政治の 2 極対立を防ぐため、早急な退任を求めている。ズマの支持者は友好的な退任を求めているが、南アの法律ではズマに裁判を免除することは出来ない。

26. 「南アフリカ：代償なしの土地の再配分の方針が決定された」

“Land expropriation without compensation makes grand entrance”

Marianne Merten 、 Daily Maverick、12 月 21 日

<https://www.dailymaverick.co.za/article/2017-12-21-ancdecides2017-land-expropriation-without-compensation-makes-grand-entrance/#.WkDkgrkUnX4>

ラマホーサ新 ANC 総裁は、総会の閉会挨拶の最後に南アフリカの最大懸案である土地問題について触れた。土地制度の改革において圧倒的な合意がある代償なしの土地の再配分を経済全体、農業生産、食糧安全を確保しながら実行されなければならない。

この問題は 1994 年の政権交替以来の懸案であり、一部憲法改正も含み ANC の中でも議論されてきた。今回の総会においても最も議論された政策課題であった。

27. 「南スーダン：内戦に加えて遊牧民同士の戦闘」

“South Sudan: Govt Declares State of Emergency”

Michael Tantoh、allafrica、12月13日

<http://allafrica.com/stories/201712130153.html>

キール大統領は湖地域に3ヶ月の緊急事態宣言を発令した。これは同地域における対決する遊牧民グループ間での紛争で170人の死者と200人の負傷者がでたからである。地域の治安当局では対応できず大統領令で軍が出動した。対決グループは手榴弾やロケット弾を用いており、戦闘地域では多数の民家が焼失した。

1. 「東欧、中近東、アフリカの消費者市場についての報告」

“**Perspectives on retail and consumer goods : Special edition: Eastern Europe, Middle East, and Africa**”

McKinsey & Company 、 Number 6 Winter 2017/18

<https://www.mckinsey.com/industries/retail/our-insights/perspectives?cid=other-eml-alt-mip-mck-oth-1712>

マッケンゼー社によるアフリカ、東欧、中近東における小売と消費の動向報告書である。今までもアフリカの消費市場については、何度か月刊アフリカニュースで取り上げているが、中近東については、今回が初めてであろう。

アフリカの消費者市場は世界で第二番目に早い成長を記録している。都市化の速さは世界一であり、45%のアフリカの人口は 2025 年までの都市に居住することになる。

アフリカの消費の半分は、東アフリカ諸国、エジプトとナイジェリアで占められている。数年前にアフリカの消費者支出は 1 兆ドルを超え、2015 年には 1.4 兆ドルである。食糧と飲料が支出の 3 分の 1 を占めているが、衣類、自動車、家庭用品などへの支出も増加の傾向にある。低所得国においては、食糧への支出が 40%を占めているが、衣類、家庭用品などへの支出も 15%を占めている。最近の通貨の切り下げ、石油輸出の停滞などが消費支出にネガティブな影響を与えているのも確かである。アフリカの消費の 90%を占める 15 ヶ国の内 12 ヶ国が 2014 と 2015 年に消費の伸びが停滞した。例外はエチオピア、DRC とタンザニアである。

2025 年に向けて、2025 年の消費支出は 2.1 兆ドルと予想されており、次の要因が指摘されている。急激な都市化、若い人口の増加、所得の増加、電子通貨等技術革新、更に消費増加に寄与するであろう地域として北アフリカと南部フリカ、ナイジェリア、東アフリカ、中央アフリカ、西アフリカの中間層が指摘されている。

また、アフリカの消費者市場については P 14～19 にて詳細に述べられている。

2. 「アフリカにおける工業化政策にアジアの経験を活かす」

“**The Practice of Industrial Policy: Government–Business Coordination in Africa and East Asia,**

edited by John Page and Finn Tarp, Oxford University Press, 2017

<https://oopen.org/download?type=document&docid=628111>

途上国の工業化については、勝ち馬を見つける、同じレベルでの競争が許されていない、というような考え方が長年議論されてきた。最近是不完全な市場における工業化が議論され、政策が立案されている。しかし、理論的な議論は具体的な工業の発展、企業の設置等に結びつけられているとは言い難い。本研究はアジアの具体的な経験をアフリカの工業化に活かす 4 提案をおこなっている。

第一に政府の具体的な工業の発展へのコミットである。アジアにおいては、政治家、官僚が、工業化へのコミットを行い、その結果に責任を持つ。

第二に政府と民間に明確な政策目標の有無である。アフリカでは政府内部でも統一した見解とコミットが無く、ましてや政府と民間ビジネス間の協力、整合性に欠ける。

例えば、アフリカにおける特別経済区域の運営は期待された成績を上げている、とは言い難い。

第三に政府と企業間の情報、経験の交換である。企業活動の観察、各種の試み、実施の糧において、アジアでは企業の失敗などの情報として、伝わり、直ちに経験として他の部門、企業にも伝わり、新たな試みが企業と政府の間に行われる。アフリカではしばしば援助国の存在が、このような情報、経験の交換、新たな試行を妨げる。

援助国が工業開発計画を立案し、アフリカ諸国に実施を促す。企業と政府間の協調、連絡に欠ける。失敗の責任の所在も曖昧となる。

第四に政府とビジネスの間の情報、経験の交換は、ビジネス、政府にとって学習の機会であると同時に各種制度の立案、確立に貢献している。工業化に成功している国は公共政策の立案と実施にむけて有用な制度を確立することが出来る。

(この文書は国連大学 (UNU-WIDER) の研究が纏められ、本として出版されました。

PDF で download できます)

3. 「アフリカ プロGRESS パネルの SDG 達成のための最終報告書」

“Making Progress Towards Attaining The Sustainable Development Goals In AFRICA 2007~2017”

African Progress Panel, 2017

http://www.africanprogresspanel.org/wp-content/uploads/2017/12/APP_2017_Making_Progress-Towards_SDGs_Africa_WEB.pdf

African Progress Panel は 2007 年にコフィー・アナン元国連事務総長を議長として識者を集め、アフリカ開発への提言を毎年発表してきた。2017 年を最後とし、2018 年からはオバサンジョ元ナイジェリア大統領を議長とし、Africa Progressive Group として新たな活動が始まる予定である。本報告書は、前半を 2007 年から 2017 年までの活動のレビュー、そして後半はアフリカ開発への総括的な提言が盛り込まれている。

第一に部門を超え横断的な優先課題：

- ・アフリカの開発の礎として人的資本の蓄積
- ・生産性の向上、特に教育と教師の研修
- ・一次産品への依存の減少、特に経済活動の多様化、インフォーマル経済への支援
- ・地域統合の促進
- ・エネルギー部門と農業、特に小農支援

第二に包括的な経済発展：

- ・すべての国民の参加する経済、特に所得格差の解消
- ・都市化の計画と資金配分
- ・極貧人口の向上への機会

第三にガバナンスの改善：

- ・現在の脆弱なガバナンス体制の改善
- ・アフリカ大陸と各国の地域レベルにおける紛争予防
- ・法による統治と人間の安全保障の強化
- ・政治の透明化への改革
- ・国の基本的な優先課題についての社会的合意の形成、

第四に政策提言：

- ・アフリカの農業と漁業革命への資金の動員
- ・アフリカの資源、資金のミスマネジメントと不法な資金の流失防止。

4 「アフリカ諸国の選挙 2018 年」

” 2018 African election calendar”、

Electoral Institute for Sustainable Democracy in Africa、Updated December 2017

<https://www.eisa.org.za/calendar2018.php>

Country	Election	Date
Cameroon	President	Oct 2018
Chad	National Assembly & local	2018
Djibouti	National Assembly	23 Feb 2018
DRC	President, legislative & provincial	23 Dec 2018
Egypt	President	Between 8 Feb 2018 & 8 May 2018
Ethiopia	Regional State Councils & local	2018
	House of the Federation (indirect)	2018
Gabon	National Assembly	By 20 Apr 2018
Gambia	Municipal elections	12 Apr 2018
Guinea	Local	4 Feb 2018
	National Assembly	Sep 2018
Guinea-Bissau	National People's Assembly	Apr (?) 2018
Libya	Parliament	Sep 2018
Madagascar	Provincial & regional	Postponed from 2017 to 2018
	President and Parliament	Nov or Dec 2018
Mali	Local and communal	Apr 2018 (postponed from 17 Dec 2017)
	President	Jul 2018
	National Assembly	Nov 2018
Mauritania	National Assembly	Nov or Dec 2018
Mauritius	President (indirect)	2018
Niger	Local	Postponed from 8 Jan 2017 to 2018

Rwanda	Chamber of Deputies	Sep 2018
São Tomé & Príncipe	National Assembly, Regional & Local	Aug 2018
Sierra Leone	President, House of Representatives & Local	7 Mar 2018
	Constitutional referendum	Postponed from Sep 2017 to 2018
South Sudan	President, National Legislative Assembly, Regional & Local	Jul (by 31 Dec) 2018
Swaziland	House of Assembly & Tinkhundla	Sept 2018
Togo	National Assembly & Local	Jun or Jul 2018
Zimbabwe	Presidential, Parliamentary, Senate & local elections	Jul (by 31 Jul) 2018

(2017 年末現在の予定表であり、今後変更はあり得ます。)

JOCV 寄稿

「空手道」を通してルワンダの子どもたちに「目標に向かうきっかけ」を与える

隊次：2015 年度 3 次隊

職種：空手道

派遣国：ルワンダ共和国

派遣先：ルワンダ空手連盟

氏名：由地 一樹

はじめに

ルワンダ共和国にボランティアとして派遣されています由地一樹（ゆうじかずき）です。私の職種は空手道で、ルワンダチームのナショナルコーチとして活動を行っています。

今回は、ルワンダでの活動について紹介したいと思います。私の活動先は、ルワンダ共和国の首都のキガリで、ルワンダ空手連盟に所属し、ルワンダの国立競技場で主にナショナルチームに所属する選手のコーチングを行っています。

ルワンダの空手に対する協力の歴史は、約 30 年前に遡るのですが、1987 年に JICA ボランティアとして空手道隊員が赴任し、ルワンダ国内における空手道の普及・指導に努められました。その後国内の混乱（ジェノサイド）等により、一時期中断の時期がありました。ルワンダ空手連盟は、2008 年政府により正式に連盟として承認されました。

現在、ルワンダの空手人口は、約 3000 人で各地に空手道場があります。

1. 活動内容の紹介

私は、2016 年 3 月ナショナルチームのコーチとして活動を開始しました。配属先からの要請内容は、ナショナルチームの強化・育成と空手初心者に対しての指導でした。ナショナルチームの練習は国立競技場で、週 3 回行われています。練習には数名から数十名の選手が参加し、私も一緒に選手の中に入って指導を行って来ました。

ルワンダの選手は手足が長いので、足技を使った攻撃は得意です。しかし、攻撃は単発の技が多く、技を組み合わせた攻撃が少ないなという印象がありました。初めて彼らの動きを見て、「技術レベルは低くないな」と感じていたので、これからの練習でチームの強化の可能性が高いと楽しみもありました。

以下に、「ナショナルチームの強化」と「空手道の普及活動」について紹介します。

2. 空手教室の開催

ナショナルチームの練習と並行しながら「普及活動」も合わせて行って来ました。チームの練習がない日に、各地にいる学校隊員の所へ訪問し、空手教室を開催することとしました。最初に訪問したのは、キガリにある小学校で、小 3～小 6 の生徒 10 人で開始しました。生徒は「KARATE」という言葉は知っているものの、実際には経験したことの無い生徒たちなので、まずは「空手道とは」から始めました。空手道の歴史、種類、ルール、礼儀についてパソコンを使いながら説明を行いました。授業を聞いている生徒の目は真剣でやる気の高さが感じられました。

私が最初に指導したのは「礼儀」です。空手道において最も大切な部分であると考えているため、時間を掛けて指導しました。姿勢、礼の角度・タイミングなど何度も何度も繰り返し教え、体で覚えるように指導しました。「礼儀」の次は、「基本練習」を指導しました。突き・蹴り・受けを一つ一つ丁寧に指導を行いました。具体的には、握りこぶしの作り方、蹴り足の高さや受け技の意味など、時間を掛けて指導を行いました。

練習も進んでいく中、形（仮想の敵を想定して攻めと守りの技を表現）の指導も行いました。



写真1 礼の仕方を指導しているところ

形は前後左右に動くので、生徒たちは最初の頃は戸惑いながら演武をしていましたが、何回も繰り返し練習を重ねることで、動きも形の動きになってきました。この空手教室で目標にしていることは、発表会を行って皆に成果を見てもらう事を目標に練習を続けてきました。また、形を演武する際は、チームを作ってリーダーを一人決めて、そのリーダーにチームを任せることにしました。発表会当日は、何百人の生徒の前での発表会でした。私もとても緊張しましたが、それ以上に生徒たちは緊張している様でした。しかし、演武が終了すると、大きな拍手を頂き、ようやく彼らから笑顔が見え、その表情はとても凛々しく見えました。

3. 世界大会出場

昨年、オーストリアのリンツで行われた「第23回世界空手道選手権大会」にルワンダから2名の選手が出場しました。ルワンダはこの世界大会が初出場で、選手もコーチもとても緊張していました。試合は、初戦1ポイントも取れずに敗退となってしまいました。

初出場ということもあって、終始体に力が入って動きが硬く、何もできず相手のペースで試合が進んで行き、自分の動きではなかったと思います。

また、試合を見て感じたのは、気持ちでも相手選手に負けていたなと感じました。



写真2 ウォーミングアップする選手

「気持ちで相手を威圧する」という考え方を持つこともとても大事で、「選手のメンタルマネジメント」もコーチとして指導が出来なかったと痛感させられました。選手が勝てなかったのは悔しいし、コーチとして何も出来なかった自分にも悔しさが残る大会となりました。しかし、世界各国の練習を見学することができ、選手やコーチとも交流し、意見交換を行うことが出来ました。中でも日本代表選手やコーチと話す機会があり、コーチとしての活動やJICAボランティアでの活動を、知って頂き貴重な時間を過ごすことが出来ました。世界大会にナショナルチームのコーチとして、参加させて頂けたことはとても光栄で、コ

一歩として「何が出来か」、そして「何が出来なかったのか」を知るいい機会でした。この経験を今後の指導に役立てて行きたいと思います。

4. 聾学校での活動

私が活動の一環として行った、同期隊員の任地での活動を事例紹介します。彼女の職種は障害児（者）支援で任地はルワンダ北部のムサンゼ郡にある聾学校で、全校生徒 60 人程の小さな学校です。ほとんどの生徒が聾啞者ですが、中にはダウン症・知的障害を持つ生徒もおり、年齢構成も様々な生徒が寄宿生活を送っています。

2016 年の 9 月に 1 度訪れて生徒たちに空手を披露しました。生徒たちからも好評で「また来年も行くね、約束する」と言



写真3 みんなで円になって練習

って学校を後にしましたが、1、2 回の訪問では物足りないなと思い、彼女に相談してみると、「木曜日の午後はスポーツの時間なので、そこで空手をやろう」ということになり、月 2 回訪問し指導を行いました。指導に際し、ほとんどの生徒は声や音が聞こえないので、言葉での説明では伝わりません。私が英語で説明をし、それを彼女が現地語の「手話」で生徒たちに伝えるという方法で指導を行いました。また、表情やジェスチャーを大きく分かりやすい表現をすることを意識しました。例えば「いいね」と生徒を褒める時は、笑顔で表現し「ダメ」だよと伝える時も、表情と仕草を使って伝えるように心掛けました。そして、健常者の子供たちと同じように指導しようと考え、「声を出しなさい」と教えました。

音が聞こえない彼らにとって、声を出すのは難しいかなとも思いましたが、お腹から声を出すように教え、何度も練習を繰り返しました。あまり、声を出すことの無い生徒たちの声を聴いたときは、驚きと感動したのを覚えています。

指導を重ねていくうちに気付いたことがありました。生徒たちの覚えるスピードが速いことです。ほかの地域の生徒たちに比べて、技や動作を覚えるのが速いと感じました。やはり、音が聞こえない分、視覚での情報しかないので「見る」ことの集中力が高いと思います。

「私の動きを良く観察しているな」とも感じ、口頭での説明より動きを中心とした指導にも取り組みました。ここでの活動も、チームを作ってリーダーを決めて形の指導を行いました。

生徒たちには、「終業式の日空手着を着てお父さん・お母さんの前で発表しよう」と目標を決めて練習を重ねてきました。特に、私が何も言わなくても、チームのリーダーが率先してチームをまとめ他のメンバーがお互いに教え合って、切磋琢磨しながら演武に取り組んでいる姿にはとても感心させられました。

終業式の前日には、生徒全員に修了証を手渡しし、記念撮影をしました。その翌日の終

業式の日、同任地の隊員や JICA 職員も駆け付け盛大に執り行われました。

空手の演武は最初に行われ、保護者の前で演武を披露しました。どのグループもとても素晴らしい演武で、胸に込み上げてくるものがありました。演武が終わった後、保護者の方から「ありがとう・ありがとう」と笑顔で握手をされた時は、この活動が出来て本当に良かったなと感じました。式が終わって生徒が自分の家に帰っていくのを見送りながら、「これで本当に終わりだな」と寂しい気持ちで一杯でしたが、生徒たちのこれからの成長も楽しみだなとも思い、聾学校での活動が終了しました。この活動に協力して頂いた同期隊員、校長先生や先生方にはとても感謝しています。ルワンダに来る前からこの活動がしたいなと彼女には話していたので、この活動は心に残る活動の一つです。

5. 指導者として

私は空手道を指導していく上で、常に心にあるのは「選手・生徒を信頼する」ことです。指導において必要最低限の指示をして、選手・生徒に任せるようにしています。指導者が選手に指示をし過ぎて、考える力を削いでしまうのはいけないと思います。

試合において戦うのは選手本人なので、選手にも考えさせることで「出来ている事」「できていない事」を気付かせることが、大切ではないかと考えています。また、選手の考え方や思いもあるので、指導者はそれを汲み取ってアドバイスを行えば、選手とのコミュニケーションの向上にも繋がると思います。選手を信じて見守ることも、指導者としての役割の一つだと思います。しかし、私もまだまだ指導者としての経験が浅いので、日々勉強しなければいけないと感じています。

6. JICA ボランティアとして

このボランティア活動では、多くのルワンダの人々に「空手道」を指導することが出来ました。中でも、各地を巡っての指導では限られた時間・回数ではありながら生徒たちの日々の上達には驚かされるばかりでした。

生徒たちにはこの空手教室を「きっかけ」に他のスポーツや勉強などに役立ててほしいと思います。ボランティアとしてルワンダ各地で指導できた事は、本当にかげがえのないものであると思います。生徒たちと共に「大きな目標」に向かって「小さな成功」を積み上げることができるのも JICA ボランティアだからこそ出来るのです。

写真4 活動先の生徒たちと

また、この活動に他の隊員をはじめ、関係者の皆様には感謝の気持ちで一杯です。各地で出会った人々のこれからの成長を期待しつつ、残りの任期も「空手道」をきっかけに「敬意」と「思いやり」を持って活動して行きます。(了)



インタビュー

佐藤 芳之 オーガニック・ソリューションズ代表に聞く —アフリカ発のビジネス・ソリューションを世界へ—



佐藤 芳之（さとう よしゆき）

1939年宮城県生まれ

東京外国語大学インド・パキスタン科卒業

ガーナ大学アフリカ研究所を経て、ケニア・トーレミルズ社勤務、
1974年ケニア・ナッツ社設立、社長就任、

2005年オーガニック・ソリューションズ・ケニア、08年オーガニック
・ソリューションズ・ルワンダ、10年オーガニック・ソリューシ

ョンズ・ジャパン、12年ルワンダ・ナッツ社設立

2017年からニカラグア、モンゴルで事業展開

—アフリカに来て54年、ビジネスを始めて47年

佐藤：大学ではアジアとアラビアの言語を専攻、独立に沸き立つアジア・アフリカに関心をもちました。在学中からアフリカ協会に出入りして、福永専務理事（当時）の仕事を手伝ったり、一杯飲ませてもらったり。卒論はガーナの経済政策についてまとめると、福永さんが「日本で考えていても仕方ないのでガーナに行きなさい。」すぐ駐日ガーナ大使にアポを取ってくれ、ガーナ大学アフリカ研究所への留学が決まりました。

1963年9月にガーナの地を踏み、10月にはエンクルマ大統領にも会えた。貧乏学生だったが、福永さんがポケットマネーからお金を送ってくれ、それで随分勇気づけられた思い出があります。

ガーナから帰国し当時のアフリカ協会会長、東レの田代茂樹会長に相談すると「東レがケニアで繊維の合弁事業を立ち上げるからお前行け」。入社して、4カ月後にケニア駐在、それから5年間、工場経営のノウハウをしっかりと学ぶと、今でいう起業したいという気持ちが強くなり退社、2年くらい試行錯誤して3年目に出会ったのがマカダミアナッツでした。

—ケニア・ナッツを世界有数の企業に育てる。

佐藤：農業開発に興味があり、ガーナ留学時代も主要産品であるココアについて調べていました。ケニアのマカダミアナッツはイギリス人がハワイから実験的にもってきてばらばら植わっていて、味はとてもいいのにどのように産業化してよいかわからない状態でした。これを育て、ケニアの一大産業にしよう、役所に企画書を送り、日本の明治製菓中川赳社長にも相談しバックアップ体制を整えてもらった。節目節目にトップの援助を得られたことが今日につながっていると思います。

—旧宗主国イギリスなど欧米系企業が有利なはずがなぜ佐藤さんのプロジェクトが採用されたのですか？



建設中のルワンダ・ナッツ社の工場にて
(2017年12月)

佐藤：私は、大規模プランテーションを開発してケニア農民が賃労働者として働くのではなく、生産者が主体となる生産拡大を重視しました。ケニアの小規模農民が現金収入を得て経済基盤を確立する、農民にも相応のリスクを負ってもらう。すべて無償で与えてしまうと「これで食べて行くぞ」という気概が育たない。お金を払って買った苗木なら人任せにせず、これで現金収入が得られると思えば農民はがんばる。こちらはナッツの集荷ポイントをいくつか作り、

そこで現金と引き換える、肝心なのは現金払い、支払いを迅速、確実にすることで農民の生産意欲は高まった。また品質、収量を上げるための栽培方法を教えました。「あなた方がいいものをたくさんつくってくれたら私が責任をもって買い上げ、世界で売りましょう。世界中のお客さんがこのナッツを食べて笑顔になりますよ。」ナッツという1つの商品作物のサイクルをじっくり年月を積み重ねて農民に語り続けることで産業化できたのだと思います。また並行して品質、数量、価格の安定を確保するために、自社農園の開発にも精を出しました。



ルワンダ農業担当国務大臣と
ヨーロッパ向けひまわりの初輸出及びルワンダ産マカダミアナッツのリテールパック発売



ルワンダ北部ムサンゼで始めた花卉生産農場の試験ハウスの中で (2017年10月)

さらに、2012年、ルワンダにルワンダ・ナッツ社を設立し、ケニアでやってきたことと同じスタイルでのナッツ事業が進行中です。

——モバイルマネーとスマホの普及でビジネスが変わる。

佐藤：創業当時、集荷に来るケニア・ナツツは現金をもっているということで拳銃をもった強盗に襲われることがあったが、エレクトロニック・バンキングの浸透で様変わり、現金を持ち歩かないので盗難リスクは減りました。

携帯電話、スマホの普及は計り知れないぐらいのインパクトを政治、経済、文化に与えている。今までは旧宗主国はじめ先進国が情報をコントロールしてアフリカ人に物事を知らせない、無知につけこ

んだところがあった。最近ではマサイの人も田舎のおばさんもナイロビのマーケットで牛や野菜がキロいくらか知っている。また銀行のコンセプトが変わり、電子マネーの普及、携帯電話で入力して送金、在外の息子・娘から「今から 1000 ドル送るよ」とケニアの親にリアルタイムで連絡がくる。昔のように為替管理下で送金に 1 カ月かかったり、銀行の手続きの煩雑さがなくなり、先進国並みに出入金に IT を使えるようになった。

——若い世代をエンカレッジして背中をおしたい。

佐藤：アフリカで起業したい若者は確実に増えて、よく相談を受けるようになった。「ここをちょっと変えようまくいくのに」と思うことがあり、かつてアフリカ協会の福永さんが私をアフリカへと導き、「中途半端ではやめられない」という気持ちにさせてくれたように、今度は私にそういう役が回ってきたと思い、2015 年経済同友会のアフリカ委員の方々の支援と協力を頂いて「アフリカ起業支援コンソーシアム」(<http://entre-africa.jp/>)が発足した。これは 1-2 年現場を見て可能性を探る期間の生活費の支援で、私自身ナツツに出会うまで 3 年かかり、その間一番困ったのが生活費だった。仕事もアイデアも時代の流れ、タイミングを逸しないことが重要だが、アフリカにまず飛び込んで行ってその変化を感じながら、今後の動きに反映させる。現場に来てプランニングするためのプラットフォームづくりを考えている。

——これからアフリカを攻めようと思ったら。

佐藤：今までの日本とアフリカの関係はというと一般的に ODA による援助活動、もしくは大企業による自動車などの日本製品の販売が主だった。一方地場産業の開発・発展は得意でなく、独自もしくは合弁で事業を立ち上げて現地事情に通じた人材に欠け、途中で頓挫するケースが多かった。我われアフリカに関わってきたシニアは日本の若い世代にどう



アフリカ協会主催の講演会（2017 年 11 月）
多くの参加者が佐藤氏にインスパイアされる

いう分野で活躍してもらえるのかを考える必要がある。たとえば、いまだ社会インフラ、道路、水、教育、医療、金になる農業などはまだまだの状況で、そのうえ若年層の失業問題が社会不安の一番の要因になっている。そこで何ができるのか？今日本で多くの若者たちが、アフリカで起業をしようと動き始めている。彼ら彼女らの個々のアイデアを活かす道を探さなければならない。

中国のすさまじい進出、日本ではこれに対して批判的な記事が多いが、現地で見るとすばらしい仕事をしていると思う。工業団地、港湾、高速道路、どんどん整備されている。アフリカ全土でスピード感をもってやってくれて、ビジネス環境が整いつつある。これを利用しない手はない。我われにも「この事業をこの国の主要産業に育て上げるのだ」という気概が必要で、豊かなイマジネーションと長期的視野をもって、地域社会貢献、雇用拡大などの課題に対して、スタートのところできちんとした具体案、思想、哲学をもって胸を張って、アフリカ人・中国人・インド人・欧米人をかき分け、堂々とやっていける人材が求められている。

環境問題と移民問題といった視点も重要。干ばつ、豪雨で食糧が十分供給できない、食糧がないのでそれが部族同士の紛争につながることもあり、予知できたのにストックしておかなかったのはマネジメント上の人災と言えるかもしれない。北アフリカからヨーロッパへの移民問題もそうだが、1700年代のアイルランドでも飢饉によって北米に多数移住、危険を冒してまで移動するのはそこで食べていけない、生活することが不可能に近い環境だからで、人間が持続的に住みうる地域になれるかどうか、そのための支援、そのための開発を考えたい。



ニカラグアのナッツ、コーヒーを植える熱帯雨林の農場にて(2017年5月)
グアテマラから苗木を購入し、植え付けを開始

——これから20年でやりたいこと

佐藤：ケニア・ナッツをやりきった後、微生物を活用する肥料づくり、土壌改良に取り組んできた (<http://osrwanda.com/ja/index.html>)。人体に安全、入手しやすい価格帯、地域にあるものを利用する、たとえば、もみ殻や麩・コーヒーダストなどを発酵させて土に



左：モンゴル市内、右：モンゴル草原でパートナーと

還元できる肥料にすると強い花卉、野菜が育つ。21 世紀の農業のベースになりえて、バラでいうと強くて長い茎、大輪の花が咲く。ケニアでは大手のバラ生産農家の多くが使い始め、当社も工場を増設している。

若い人の背中をおすと同時に、まだまだ若い人に負けるわけにはいかない。自分自身をもう一度確かめようとニカラグアとモンゴルで事業を始めた。

ニカラグアでは、ケニア・ルワンダでの農業関係の事業と連携させて、熱帯雨林高地での無農薬コーヒー、ナッツの栽培、自然農法の確立をめざしている。モンゴルでは、すでに、東アフリカで成功した微生物による環境浄化、公共衛生の改善に取り組んでいる。これは東北の震災復興に役立ち、ウランバートルでも必要性を感じ、モンゴルの草原が私を呼んでいるような気がしている。その次にはヨーロッパのどこかに行つてやろうと思っている。



ウランバートル蠟人形館でチンギス・カン、フビライ・ハーンと（2017年8月）

私は日本で働いたことがなく、初めて働いたのがアフリカだった。アフリカで培ったビジネスキャリア、仕事への想い、考えをアフリカ発のビジネス・ソリューションとしてスタートさせたい。そしてアフリカ発のシステムを、金融資本主義ではなく、原丈人氏が提唱する公益資本主義・Fintechなどと融合させながら新しい経済発展のしくみ作りに参加できたらうれしいなと思っている。

(インタビュアー：清水 真理子)

アフリカ映画情報

特別研究員 高倍 宣義

☆：上映予定作品 *：上映中の作品

新年明けましておめでとうございます。どれぐらいの方がこの欄に目を通して下さっているのか分かりませんが、劇場で公開されるアフリカ映画の紹介を通じ多くの方が作品を見てくだされば、と書いています。お役にたてば幸いです。

暮れの新聞に5人の映画評論家が2017年映画を3作品列挙している中に「ムーンライト」と「ドリーム」が入っていました。純然たるアフリカ映画ではないが、アカデミー賞で賞を得たアメリカのアフリカ系の人たちを描いたものです。

今年の一歩の楽しみは5月に公開される「私はあなたのニグロではない」です。

☆「私はあなたのニグロではない」 I Am Not Your Negro ラウル・ペック監督

2016/アメリカ・フランス 5月公開予定

ジェームズ・ボードウィンの未完の原稿「Remember This House」を基に、凶弾に倒れたアメリカの公民権運動の3人のアフリカ系指導者メドガー・エヴァース、マルコム X、M. ルーサー・キングの思想や活動を通して、アメリカ社会に根強く残るアフリカ系の人々への差別や憎悪の本質を突く作品。YIDFF（山形ドキュメンタリー映画祭）で先行上映されています。

*「はじめてのおもてなし」 Willkommen bei den Hartmann S. バーホーベン監督

2016/ドイツ 1月13日よりシネスイッチ銀座 <http://www.cetera.co.jp/welcome/>

ナイジェリアからの難民申請中の青年を受け入れたミュンヘンの一家が内と外で直面する試練をユーモラスに描いたヒューマン・ドラマ。ボコ・ハラムや反移民活動家も出てくる今日の作品。UNHCR 難民映画祭で先行上映されました。

*「ナオト・インティライミ冒険記 旅人ダイアリー2 前篇・後編」加藤 肇監督

前篇・後編共全国公開中

<http://naoto-tabiuta2.com/>

かつてアフリカを旅したミュージシャンが再びアフリカ 14カ国を訪れとヨーロッパで終わる楽しい音楽ロードムービー2部作。1月5日にロードショーが始まった後編は、セネガル、ガーナ、マダガスカルなどの楽器、音楽家、子供たちとの交流が入っています。

*「わたくしは、幸福 (フェリシテ) 」 FELICITE アラン・ゴミス監督

2017/フランス・セネガル他 公開中

<http://www.moviola.jp/felicite/>

コンゴ（民）首都キンシャサを舞台に、交通事故で入院した息子を救おうと駆けずり回る女性歌手と彼女を慕う修理屋の現代ドラマです。

*「ドリーム」 Hidden Figures セオドア・メルフィ監督 2016/アメリカ

全国公開中

<http://www.foxmovies-jp.com/dreammovie/>

1962年に地球周回軌道飛行をしたグレン宇宙飛行士を支えたNASAで働く3人のアフリカ系アフリカ系才女の間味と勇気、彼女らの価値を認め受け入れるNASAの職場が爽やかに描かれる。ノンフィクション小説が原作です。

アフリカ協会からのご案内 ー協会日誌ー

理事 事務局長 成島 利晴

12月15日～1月14日

12月14日「年末交流会」

18時より外務精励会大手町倶楽部にて恒例の年末交流会を開催致しました。
本交流会は協会の会員及び関係者の皆様にご支援に感謝する意味で開催しておりますが、今年は外務省大菅アフリカ部長にお出で頂き、又当協会からは澤田秀雄副会長、大島理事長など、合計49名の方にご参加頂き、和やかに1年のさまざまな出来事を振り返って頂く時間を過ごして頂きました。

1月14日 都立中央図書館シリーズ展示「世界中の国のこともっと知ろう！第7回アフリカ Part2 編」

東京都立中央図書館では、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、世界の国・地域の生活や文化を紹介するシリーズ展示を1月14日まで4階企画展示室にて行いました。

当協会は、中央図書館に協力して下記イベントを共同企画致しました。

- ・機関誌「アフリカ」表紙原画展：建築家坂田泉特別研究員の原画70点を展示
- ・アフリカ講座開催（特別研究員による6回に亘る講演会開催）

今後の予定

1月16日「高校生懸賞論文表彰式」

時間：14時から15時予定

場所：国際文化会館 4階401号室

概要：2017年度募集の高校生懸賞論文に応募頂きました論文より、優秀賞及び佳作を選定して表彰致します。特に本年は優秀賞に準ずる優秀な論文を審査委員長特別賞として新たに選定し表彰致します。

1月19日「日本モロッコ協会主催第4回新春対談」ーアフリカ経済の魅力と課題ー

時間：13時半から16時半予定

場所：JXホールディングス JXビル2階講堂

概要：住友電気工業松本正義会長による基調講演の後、広瀬晴子日本モロッコ協会会長の司会によりラシャッドブフラル在日モロッコ大使及びモハンメド・ガナ・イサ在日ナイジェリア大使とアフリカ経済の魅力と課題について、モロッコ並びにナイジェリアの例を中心に対談。

当協会は本対談を後援しています。

1月20日「Tokyo Africa Collection 2018」

時間：16時から18時予定

場所：住友不動産六本木グランドタワー 24階

概要：日本の若者がアフリカに興味を持ち、将来的にアフリカに何らかの形で

関わるためのきっかけづくりとして開催。若者に、身近なファッション・エンターテインメントを通して、“ポジティブでスタイリッシュなアフリカ”というイメージを与えたい。主催は学生有志団体で学生モデルを多数起用。当協会は本開催を後援しています。

1月26日 「2017年度第13回亀田駐ウガンダ大使を囲む懇談会」

時間：14時から16時予定

場所：国際文化会館 4階 404号室

概要：亀田和明駐ウガンダ大使をお迎えして、ウガンダ共和国の政治・経済情勢に関し、懇談致します。

1月26日 「第2回アフリカ・サロン」

時間：17時から19時予定

場所：外務精励会 大手町倶楽部

(千代田区大手町1-8-1、KDDI大手町ビル2階)

概要：第1回に続き、第2回アフリカ・サロンを開催致します。前回と同様、会員他アフリカにご興味ある方々にお集まりいただき、外務省外務精励会大手町倶楽部にて、飲物を手に和やかに且つ真摯にアフリカについて語らさせて頂きます。第2回目はガーナやチリ大使等を歴任されこのほど退官された二階尚人大使をお迎えして、ガーナ駐在時のご経験を交えアフリカについてのお話を伺います。

2月2日 「2017年度第14回小西駐ベナン大使を囲む懇談会」

時間：14時から16時予定

場所：国際文化会館 4階 403号会議室

概要：小西淳文駐ベナン大使をお迎えして、ベナン共和国の政治・経済情勢に関し懇談致します。